

## 平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

地域に開かれた学校として、時代や社会ニーズに対応し、府民から信頼される農業高校をめざす。

1. 個に応じた確かな学力の定着を図り、実業教育で職業観を養い、同時に「豊かな心」と「生きる力」を育成する。
2. 様々な機関等と連携し、広がりのある教育を展開し、校内と校外との両方の実習活動等を通じて、生徒を育てる。
3. キャリア教育を充実させ、新たな進路先を開拓し、将来に夢を持ち関連産業等で活躍できる人材や農業の担い手を育成する。
4. 農業教育のセンター校的役割を果し、生徒の活動成果等を府民に還元し、食と農、緑と環境保護等、農業への理解を広める。
5. 平成 28 年度日本学校農業クラブ連盟全国大会大阪府大会に向けて、事務局校としての役割を果たす。

## 2 中期的目標

## 1 基礎学力の定着と生きる力等の育成

- (1) 教育のプロ意識をもって、個に応じた「わかる授業」をめざして、日々授業内容の充実と指導方法の改善等に取り組む。
  - ア 少人数展開授業、入り込み授業、個別補習等を充実し、「わかる授業」を展開する。(授業評価で、全科目で生徒理解度 80%以上をめざす)
  - イ 新学習指導要領を踏まえ、各教科で教育内容の充実を図り、新しい指導内容等の導入を図る。(新科目への対応、指導内容とシラバスの充実を図る)
  - ウ 各科目の指導内容を工夫・改善し、研究授業や研修受講等を通じて教員の指導力の向上を図る。(教科、教科交流した校内授業力向上研修の定着)
  - エ 平常授業とは別に、基礎学力の定着の取り組みを組織的に実施(朝学習の導入、土曜日を活用した進路別指導の徹底 H26 試行、将来単位認定を)
- (2) 精選した学校行事、特別活動、人権学習等を通して、「協働する心」や「思いやりの心」を育成する。
  - ア 年間の学年行事や LHR 等を活用して、志学とキャリア教育、人権教育等の指導計画を確立する。(学校行事、HR 活動等の指導の目標と計画の明確化を図る)
- (3) 学校農業クラブ活動のプロジェクト学習等を通じて、勤労意欲と志を持ち、自ら考え行動する「生きる力」をつける。
  - ア 反復した訓練の実習により高い技能を身につけさせ、仕事の役割を体得させ、責任感、勤労観等を養う。(農場実習で技能と勤労観等の育成)
  - イ 専門分野等への興味・関心を高め、資格取得、各種大会等に積極的に参加し、自信をつけ意欲を向上させる。(農業クラブ競技会等の積極的参加を推奨)
  - ウ 平成 28 年度農業クラブ全国大会の運営生徒の徹底指導及び全国大会各種競技大会の最優秀をめざす指導 (H26 から土曜日活用でも取り組む)

## 2 相談体制の充実と自己実現の支援

- (1) 全生徒・保護者と面談を行い、生徒を取り巻く状況等を把握し、生徒に向き合う指導を徹底する。(生徒実態アンケート実施、面談や相談体制の充実)
- (2) 「将来のあり方・生き方」を考えるキャリアガイダンス機能の充実を図り、個々の進路実現の支援を図る。(学校紹介就職 100%、希望進学先等の実現)

## 3 機能的・機動的な運営組織の構築

- (1) 教職員が ICT を活用し、データ等の収集・分析・把握に努め、情報を共有し、効率的に運用する。(個別の校務処理システム等本格活用、会議資料 I C T 化等)
- (2) 学校を取り巻く様々な状況を把握し、課題発見に努め、迅速に対応できる校務運営組織を構築する。(報告、連絡、相談の徹底とフレキシブルな組織運営)
- (3) 全教職員が同じ目標に向かって協力し、チームワークをもって各部署での役割と責務を果たす。(教職員間の意思疎通を図り、チームで課題対応)
- (4) 学校活動全般に PDCA を定着させ、逐次総括で課題を分析し、次の行動に反映する。(直後の課題分析、結果を次に生かして深化する運営をめざす)

## 4 広がりのある教育の展開と情報発信

- (1) P T A、同窓会との連携による生徒支援の取組みを推進する。(授業公開、生徒指導協力、生徒講演会、進路先開拓等協力、H29 創立 100 周年記念の準備)
- (2) 外部の機関等と連携し、生徒が校外でも活躍できる場を設定し、校内と校外とで生徒を育てる。(実社会での体験活動により、生徒に自信とやる気を育成)
- (3) 新しい分野の教育内容(環境、健康、福祉、知的財産、他産業との連携等)を農業教育に導入する。(農業の 6 次産業化を視野に、新分野の教育も展開)
- (4) オール大阪の農業教育ネットワーク(農林行政、大学、企業、農家、農事法人、教委等)を構築する。(都市の中での農業教育をコラボで、進展させる)
- (5) 学校説明会や体験入学会の充実、広報資料作成(ポスター、DVD)、HP 更新、報道提供と取材受入れ等。(府民・入学希望者等へ学校情報の積極的な発信)

## 5 地域の農業高校として、社会的な貢献

- (1) 府民ニーズを踏まえ、生徒の活動を通じた地域貢献、学校資産を地域に還元。(農業教育センター校、食育推進、農業体験の受入れ、地域イベント協力等)
- (2) 平成 28 年度日本学校農業クラブ連盟全国大会の事務局校として、開催の計画と準備等を推進する。(H26 に実施大綱、H27 に大会要項を全国に発信)
- (3) 農業教育機関等とのネットワークを構築し、大阪府内の農業教育全般の役割分担を明確にし、オール大阪農業教育体制を確立する。(関係者会議の実施)
- (4) 時代に対応した新たな教育内容と基礎実習の充実に向けて、農場等の将来計画を策定し、産振施設・設備等の充実を図る。(農場の将来計画構想策定等)
- (5) 「大阪における農業教育のあり方」提言(H25.1)を踏まえ、大阪の都市農業を担い、農から食とみどりをクリエイトする人材の育成をめざし、社会状況や地域のニーズに対応した農と食を繋ぐ新たな学びを創出するカリキュラムを編成するとともに、将来の学科の改編を検討し、関係部局と調整を図りながら、平成 26 年度以降を目途に学科改編を実施する。(H26～具体的スケジュール等を検討)

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 26 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p><b>【学習指導等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度初実施の「朝学習」「土曜日活用」について、生徒・保護者とも肯定的な回答が、30%強であったが、実施形態・内容次第という意見もあり、本年度の検証を次年度に生かす必要がある。なお、座学の授業へ生徒の満足度の平均値は 40%強であり、昨年を値を上回った。これは前年度から実施している授業改善の取り組みの成果が出たと思われる。</li> </ul> <p><b>【生徒指導等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遅刻指導・頭髪指導など、生活規律の確立という問いに、50%の生徒が肯定的な回答をしている。専門科ごとで指導方針に差があるという指摘もあり、一致した基準で行うことを全教職員で再確認する必要がある。</li> <li>・キャリア教育の充実に対する肯定率は学年進行で、高くなり、3 年生では 83%で、計画的かつ丁寧な進路指導を実施した取組効果がでている。</li> </ul> <p><b>【学校運営】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の施設・設備や各教科の備品や教材教具について 60%以上の教職員が満足できないと回答している。優先順位を決め、対応が必要である。</li> <li>・「研修等に参加した成果を他の教職員に伝える機会の設定」では職員が 43%で、昨年よりも肯定的な意見が増えた。教職員全体の資質向上等に向けて、全教職員による情報共有の一層の推進が必要である。</li> </ul>	<p>第 1 回 (7/9 実施)</p> <p>○学校評価と学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな取組みは素晴らしいが、先生の負担が心配。生徒がやる気を出すことが大切。</li> <li>・認定テストによる級の賞状は生徒のやりがいがあると思う。</li> <li>・朝学習や土曜日活用は、前向きな取り組みで、自分で勉強する生徒になってほしい。</li> <li>・試行錯誤を繰り返して、良い取り組みにしてほしい。</li> </ul> <p>第 2 回 (12/5 実施)</p> <p>○学科の改編について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アグリビジネスが発展し、他業種参入も増えている。教育効果が上がる改編が必要</li> <li>・農業大学校も農業関連の就職に力を入れている。進路の先として連携したい。</li> <li>・生産者側の 6 次産業化もあれば、加工側でも同様、改編することは良いことである。</li> <li>・新学科のネーミングはすべてカタカナにすると逆にインパクトがなくなる。</li> <li>・5 学科構想は中学生にとっても分かりやすいので、改編を進めてほしい。</li> <li>・高校 3 年に加え、大学 4 年の計画図があった方がよい。</li> </ul> <p>第 3 回 (2/6 実施)</p> <p>○授業アンケート結果、学校教育自己診断結果について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導法の工夫で授業理解度が上がっていることは良いが、教員の負担増ではないか。</li> <li>・会議を減らすなど、少しでも業務量を減らす工夫が必要、土曜日の補充授業は効果的。</li> <li>・大学進学者に、学習ケアしているが、自分で乗り切る意気込みを持たせることが大切。</li> </ul>

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 基礎学力の定着と生きる力等の育成	<p>(1) 個に応じた基礎学力の定着</p> <p>ア わかる授業の実施 イ 授業評価の活用 ウ 授業力の向上 エ 基礎学力の定着</p> <p>(2) 「豊かな心」と「生きる力」の育成</p> <p>ア 「生きる力」の育成 イ 「協働する心」と「思いやりの心」を育成</p>	<p>(1) ア・国、数、英で少人数展開授業や入り込み授業、全教科・科目で、個別補習を実施 イ・授業アンケートを実施（1・2学期末2回） ウ・授業力向上のために、H25 パッケージ研修で得た新授業評価票による授業観察の実施 ・学校として自主研修・研究授業等を実施、パッケージ研修（2年目）、授業等の改善 エ・朝学習、土曜日活用等で、基礎学力の定着と学習力の向上、遅刻者数を半減させる。</p> <p>(2) ア・農業クラブ活動等を通じて「自ら考え行動する力」を育成。全国大会をめざし競技会等にも積極的に参加し、校外活動で、自信を持たせ、学習意欲を向上させる。 イ・学校行事、特別活動、人権学習等で「協働する心」と「思いやりの心」を育成</p>	<p>(1) ア・展開実績、授業評価等 イ・授業アンケートにおける授業理解度全教科平均値（現状 77.7%から80%以上に） ウ・研究授業の実施、管理職による授業評価票等 エ・実施内容と学習成果遅刻者数（50%以下に）</p> <p>(2) ア・農業クラブ大会等の成果、地域交流活動実績 ・自己診断の意欲値等 イ・人権アンケート等、各種生徒アンケート結果</p>	<p>(1) ア・農業科では少人数の実習、国・数・英では1/3～1/2で展開や入込授業を実施した。(○) ・次年度から教育課程を見直し、進路に対応する視点から第一段階の改定をした。(◎) イ・授業アンケートの理解度全教科平均値 77.7%から78.5%と 0.8 ポイント上昇したが、目標の80%以上には及ばなかった。グループ学習等で、再度80%以上の分かる授業の実現を目標としたい。(△) ウ・授業改善に向けたパッケージ研修Ⅱ、フォローアップ研修で授業研究を実施、本校版授業観察シートを使用し、管理職による授業評価は全教員に実施し指導助言した。指導法の工夫は進行している。(○) エ・今年度から初めた朝学習・土曜日活用は、検討委員会を組織し、逐次検討しながら実施した。一定の効果が見られた。さらに改善し継続したい。(○) ・遅刻多い生徒は限られており、朝学習の実施による大幅な減少効果は見られなかった。(△)</p> <p>(2) ア・農ク大阪大会、近畿大会、全国産業教育フェアでも活躍、農芸ブランド生産物を百貨店等で販売、関空、堺市役所花壇等装飾、一日カフェ経営、小中食育交流等活発に活動等、農業クラブ特級位、各種専門資格、ワープロ検定、英語検定等、取得実績有(◎) ・生徒学校生活充実値（約70%が高評価）(○) イ・学校行事（体育祭、農芸祭・収穫祭、施設訪問、人権コンサート等）の成果（70%以上が高評価）(◎) 今後も工夫・改善して継続実施していく。</p>
2 相談体制の充実と自己実現の支援	<p>(1) 生徒理解促進のための相談体制の充実と生徒と向き合う指導実践</p> <p>(2) 自己実現を支援する進路指導体制の確立と個々の進路自己実現の支援</p>	<p>(1) ・いじめ等調査（年2回）、生徒実態調査（学校独自1回）実施、結果を課題分析し、職員で共有し、生徒指導全般に活用する。（学年単位で実施） ・保健室・相談室、学年、進路指導部、生活指導部に加え、専門科でも相談体制を強化。</p> <p>(2) ・各担任は全生徒・保護者と懇談し、1年次から進路希望状況を把握し、専門各科と進路指導部の連携を強化。進路指導年間計画を核に、特別活動、教科等にも「将来の在り方・生き方」を考えるキャリア指導を実施する。 ・進路実現にむけた個別補習指導等の実施</p>	<p>(1) ・生徒実態調査等の実施結果分析、その対応実績 ・教育相談件数と対応等</p> <p>(2) ・担任の懇談状況（年2回以上）と1年次から専門科と進路指導部の連携協議実績、各学年のキャリアガイダンス実施状況、個別指導実績 ・新規進路先等開拓実績 ・卒業時の進路実績等（就職内定100%、国公立農学部等の進学者増）</p>	<p>(1) ・生徒実態調査の実施、毎年継続実施し、分析結果を、指導の方針に生かしたい。(○) ・教育相談職員研修「統合失調症について」（8月実施）、相談件数（SC相談者約50名、ケース会議4件）、生徒に相談窓口の徹底（プリント、掲示等）、より相談し易い体制作りを継続したい。(○)</p> <p>(2) ・担任の個別懇談状況（年2回以上）、1年次から計画的な進路指導計画（進学・就職ガイダンス、各種説明会、面接練習、進路講話、企業見学等）により実施。担任・学年、専門科と進路指導部の連携は進んだが、まだ改善の余地がある。(○) ・土曜日活用等で、キャリア講演会が実施できた。(○) ・学校紹介を希望の就職決定は11月末で100%決定。 ・学科での徹底した指導等により、近年最高の国公立農学部7名、私学大農学関係16名、農業大学校7名進学した。(◎) ・次年度の教育課程を進路対応のカリキュラムに見直しを図り、科目構成等を改定した。(○) 今後改革をさらに進め、時代に対応した学科改編と進路先と指導体制をリンクして検討を進めたい。</p>

## 府立農芸高等学校

<p>3 機能的・機動的な運営組織の構築</p>	<p>(1) 機能的、機動的な学校運営組織の構築 ア 校務組織等の再構築 イ PDCAサイクルの定着と教職員の対応力の強化 ウ ICT活用(校務処理システムの運用と有効活用推進)</p>	<p>ア・学校教育自己診断結果や学校協議会等の提言を学校運営計画に反映する。 ・再任用職員の増加、農業クラブ大阪大会事務局校、学校改革等の課題を踏まえ、校務分担調整委員会(教頭、各科代表等で構成)で年度当初からフレキな組織体制を協議する。 イ・各行事等が終わる毎にアンケート集約し、改善案を作成する。総括に基づき次年度へ反映させ、学校運営全般にわたりPDCAサイクルの定着を図る。 ・対応行動チェックマニュアルの作成検討 ウ・校務処理システムのスムーズな活用と他でもICTの有効活用を推進する。</p>	<p>ア・3首席と指導教諭の業務内容の再構築と業務遂行状況、農業クラブ大阪大会校内の業務分担調整、及び組織改善実績等 イ・逐次及び年度末総括の状況とその改善の状況等 ウ・校内検討組織の確立、ICTによる校務処理システム他の活用の進捗状況等</p>	<p>ア・学校教育自己診断結果、学校協議会の提言を踏まえ、首席、指導教諭で新校務を分担しながら、学校全体として、ほぼ計画通り実施できた。(○) ・校内の内規はすべて見直し、校務分担調整委員会組織での協議から校長ヒアリングによる校務検討にした。次年度以降はH28農業クラブ大阪大会事務局業務、各チーフ担当等本格的に業務量が増大するので、学校組織をより効率的に見直し、全職員で対応できる校務分担の検討を継続していく。(○) イ・各行事等終了後、逐次アンケート等実施するなど、直後の総括と、年度末に各部署からの提案を持ち寄り、全職員で学校全体として検討し次年度に改善するPDCAサイクルはほぼ機能している。(○) ・逐次発生した諸課題等を、組織として、問題解決に向けて迅速に行動できる点では、まだ改善点がある。OJTで個々の教員の力量を高め、行動のチェックマニュアルの作成と研修会も実施したい。(△) ウ・職員研修会等を実施し、新たな校務処理システムのスムーズな運用ができた。(○) ・教職員のICT活用が進んでいない。LAN教室の授業と同様に、教室での活用も含め検討したい。(△)</p>
<p>4 広がりのある教育の展開と情報発信</p>	<p>(1) ア PTAや同窓会組織との連携 イ 外部機関等と連携し、広がりのある教育の展開 (2) ア 学校情報の外部への発信</p>	<p>(1) ア・PTA、同窓会の協力で生徒の活動を支援する取組みを推進する。PTA携帯ネット情報発信推進、H29創立100周年記念事業の準備会から実行委員会組織にする。 イ・農業クラブ活動等を通じて、地域や外部の機関等と連携し、生徒が校外でも活躍できる場を数多く設定し、実体験活動により生徒に自信をつけさせ、学習意欲の向上をめざす。 (2) ア・校内見学会、体験入学会の実施回数を増やし、ホームページの刷新と更新、生徒活動の報道提供、中学校への訪問、農芸グッズやDVDの新規作成、活動資料等の配布、外部説明会の参加など、逐次、学校情報をより積極的に外部へ発信する。</p>	<p>(1) ア・PTA、同窓会等と連携した取組みの実績等 イ・生徒の校外活動等の推進状況とその成果等 ・自己診断の生徒意欲値 (2) ア・広報チームの組織化、HPの更新(月1回以上)、紹介DVD等の新規作成及び配付実績、校内説明会開催実績、校外説明会参加・中学校訪問実績など</p>	<p>(1) ア・PTA生徒活動支援等の活用、PTA共催講演会の実施、同窓会生徒研究活動支援等の活用等より、生徒活動の側面的支援となり、生徒活動が活性化に寄与している。創立100周年祈念に向けた実行委員会が発足、また、平成28年度農業クラブ全国大阪大会の同窓会支援体制も継続できた。(◎) イ・生徒の校外活動等の推進状況としては、昨年に引き続き以下例の様々な取組みが実践された。堺市役所前花壇、閑空正月飾り制作、農業の知的財産ブランド開発、複数の百貨店で、野菜、草花、ジャム、農芸グッズ等の生徒生産物販売、ふれあい動物園活動、アガモ肉生産企業連携、高校生一日カフェ経営などを農業クラブ活動として休日等にも実施している。また、農業クラブ大阪大会、近畿大会、学生科学賞、農業記録賞、全国産業フェア、産業教育振興作文などで成果を発表し、各種入賞実績有。各学科で地域連携の取組みを推進し、生徒の活動がTVや新聞等で報道され、生徒の学習意欲がさらに向上。実験・実習等の生徒満足値(80%以上の高評価)(◎) (2) ア・一昨年度当初にHPの構造をシンプルにリニューアルした。まだまだ改善の余地がある。(△) 学校紹介DVD等は学校案内とともに来校中学生等に全員配布し、学校説明会(6月)・体験入学会(11月)に加え12月にも説明会Ⅱを実施し、個別訪問にも対応した。校外の進学説明会参加(約20回)、中学校訪問など広報活動に努めたが、府内全体に広く知られていないので、今後も効果的で理解の得られるよう工夫した取組みを実施したい。(○)</p>

## 府立農芸高等学校

<p>5 地域の農業高校として社会的な貢献</p>	<p>(1) 府民ニーズを踏まえ、大阪府の農業高校としての役割を果たす。 ア 地域連携と学校資産活用 イ H28 農業クラブ全国大会準備 ウ 農業の担い手等の育成 エ 農場等の将来計画と学科改編案を策定</p>	<p>ア・学校資産を活用し、農業教育のセンター校として、食育推進、生産物販売、講習会開催、見学受入、地域ブランド開発、緑化協力、イベント参加協力等を実施する。(通年) イ・平成 28 年度日本学校農業クラブ連盟全国大阪大会、全国農業高校校長協会の大阪府開催のため、事務局校として、府内、近畿、全国の高校や関係機関、文科省、教委等と逐次調整し、実行委員会組織等を設立し、計画的な準備を推進する。 ウ・府環境農林水産部、農業大学校と連携して、担い手育成、新たな就農先の開拓を推進。 エ・「今後の大阪における農業教育のあり方」提言による時代に対応した教育内容の構築、将来の学科の改編案等を順次実行する。 ・施設充実とSPH事業の受託をめざす。</p>	<p>ア・種々の取組みの推進状況とその成果等 イ・府内準備会開催実績と準備の進捗状況(全国への発信内容等) ウ・大阪府都市農業参入促進連絡会等の参加や農業自営や農業関連産業への自己実現支援実績、農業大学校等への進学実績等 エ・教育施設の充実の取組みと農場等の将来計画、及び学科改編に向けての進捗状況等</p>	<p>ア・美原区適応指導教室農業体験活動支援、美原区朝市、堺市農業祭、金岡地区田植え体験事業参加、府教育センター農業実技研修等受入れ、美加の台中学校、美原小、黒山小、美原西小等食育活動等の交流、大阪府立大学と性教育連携8年継続、知的財産教育先進県の農業高校と交流し教員講師派遣等を実施し、生徒がより積極的に活動するようになってきている。今後時間調整ができれば、美原区小中学校との職員間の授業見学交流も検討したい。(◎) イ・府内準備会開催実績(年度内11回実施)。実施情報収集とともに、各校の役割分担により進捗状況報告、実施大綱(素案)を策定した。近畿府県の農業校長会、農業教育研究会、農業クラブ各府県連盟に提案。全国組織とも調整継続、次年度以降実行員会、生徒委員会等組織し、計画的に具体的な取組みを着々と進めていく。(◎) ウ・大阪府都市農業参入促進連絡会等に継続参加、環境農林水産部の諸機関と連携し、農業大学校と逐次情報交換し、進路先として協力して農業関連人材を育成する。(○) エ・整備後の肉加工室で食肉処理許可証(6/20～)を得て、「農芸ポーク」の販売が可能になった。 「今後の大阪における農業教育のあり方」の提言に従って、新しい時代に対応した大阪独自の魅力ある農業の学科と教育内容の充実に向けて、校内の検討を再開した。さらに、農場等の将来計画及び学科改編案の策定等さらに深く検討を進めたい。今年度のSPH事業は採択されなかった。次年度は国のスーパー食育スクール(SSS)事業に応募したい。(○)</p>
-------------------------------	---	--	--	---